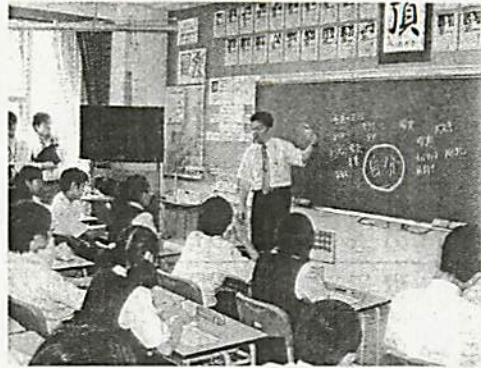


心に響く学び合いを重視

道教育大附属札幌中が研究大会



歩を踏み出す勇気にながっていくもの」とし、「響育はクロールマイニングを育む過程において、感性を磨く学び合いをデザインすることで実現できる」との研究仮説を立てた。

三次目は心

道教育大学附属札幌中学校(佐藤昌彦校長)は二十六日、同校で二十四年度教育研究大会を開催した。約四百二十人が参加し、十六授業を公開。二年生道徳の時間は斉藤康夫教諭が指導し、それぞれの本当の自分について考えさせた。

研究概要は後日掲載。研究主題は「響育をめざした学びのデザイン」社会を築き、未来を切り拓く生徒の育成」で、三カ年計画の最終年次に当たる。「響育」について同校は、「心に響く学び合いを重視するもので、自分の考えを表現し、他者の心を響かせる経験を重ねることが個々の自尊感情を高め、強い一

歩を踏み出す勇気にながっていくもの」とし、「響育はクロールマイニングを育む過程において、感性を磨く学び合いをデザインすることで実現できる」との研究仮説を立てた。

では」と述べた。斉藤教諭は別の自分はあるかについて考えさせ、周りから誤解された経験などについて意見交流させたあと、「人に見せたくない自分もあっていいよね。隠していたい自分を勇気をもって言ってくれた。それがあと一歩だけ前に進むことであり、見せることによって人間関係に新たなものが生まれたり、違う方向に進むこともある」とまとめた。公開授業後は分科会ごとに話し合った。

に響く学び合いによって、将来にわたって生きて働く資質を育み、求める生徒の姿である「社会を築き、未来を切り拓く生徒」を実現する学校教育を目指すカリキュラム全体構造の作成を進めてきた。

当日は研究全体説明に続き十六授業を公開し、うち二年生道徳の時間「あと一歩だけ、前に進む」を斉藤康夫教諭が指導した。写真。斉藤教諭は歌手スガシカオが作詞した「Progress」の資料を提示し、「この歌にはどのようなメッセージが込められているか」と質問。生徒は「たぶんいまの自分から抜け出したい気持ちを表わして

るのでは」「一歩前に出る」と人は変わることができるとを伝えていた。などと感想を述べていた。曲を聴かせたあと、「本当の自分って何だろうか。嫌いな自分、好きな自分、理想の自分はあるかな」と発問し、それぞれのワークシートに書かせた。斉藤教諭は書けなかった人に着目し理由を聞くと、生徒は本当の自分は自分ではわからない。周りの人によって自分がつくられているから」と回答。これを受けてほかの生徒が「理想の自分、現実の自分も含めて本当の自分だ」と思う。仲間がいてこそ本当の自分が成り立つの